

1. 生涯学習を取り巻く状況

我が国の社会をめぐる状況の変化

- 超高齢社会の到来、地域のコミュニティ消滅の危機、人口減少による行政サービスの縮小、
- 科学技術イノベーションの発展、グローバル化の進展による社会の急激な変化
- 不断の知識・技能の修得の必要性、学習成果の適切な活用と地域社会の自立に向けた取組の必要性

学習環境の変化

地域に根差した学習活動の機会は減少

情報通信技術の進展による学習スタイルの劇的な変化(ex.携帯端末による学習、e-ラーニング講座などの増加)

社会の変化と生涯にわたって学び続ける意義

- ・個々人の興味や関心に基づく、充実した心豊かな生活を送るための活用
- ・地域の課題解決に向けた活動への活用 ・就業や大学入学者選抜などでの学習成果の活用

2. 学習成果活用の課題

生涯学習等の現状

学習機会を通じた成果には、学校教育、公民館等の講座や大学の公開講座、ボランティア活動への参加など様々な学習機会を通じた成果が含まれるが、そうした成果を評価し、社会的に通用させる方策が不十分
学習者、学習機会提供者における課題

各種の社会的課題の存在や、学習活動を課題解決へ生かすことの意義に関する意識啓発/

学習成果を証明する検定試験等の信頼性の確保/ 学習コミュニティの形成に向けたネットワーク化

公民館、大学等における地域課題の解決を意識した講座の充実

地域活動に関する課題

学習者を地域活動への参加に誘うような仕組みづくりの必要性

3. 今後の施策の方向性

基本的視点

全員参加による課題解決社会に向けた、学習機会の充実、学習成果の適切な評価・活用の環境

- 『「学び」と「活動」の循環』の形成
- 「学び」の場と整備・充実
- 「学び」と「活動」の橋渡し

4. 「人材認証制度※」の活用の推進

※人材認証制度：一定の学習や活動を経た人材の能力、経験等を第三者が客観的に認証等を行う仕組みを網羅的に指す

人材認証制度の役割・機能

- ・地域が必要とする人材の可視化 ・課題と学習需要とのマッチングへの寄与
- ・個々人の多種多様な学習・活動履歴の体系化

当面取り組むべき事項

- ・自治体と大学等との連携・モデル的な事例の共有
- ・学びと活動の乖離の解消のためのICTの活用

5. ICTを活用した「生涯学習プラットフォーム（仮称）」の構築

求められる役割・機能

- 学習機会提供機能 (ex.レコメンド機能を通じ、学習者の関心に応じた学習機会を提供)
- 学習・活動履歴の記録・証明機能 (ex.学習・活動履歴の体系化、地域課題と学習需要とのマッチング)
- 学習者等のネットワーク化機能 (ex.地域・空間・世代を超えた学習コミュニティの形成)

当面取り組むべき事項

- ・生涯学習プラットフォーム（仮称）の構築に向け、国は主体的に構想すべき
- また、個人情報保護やICTを学習者のネットワーク化に活用する場合の課題についての研究が必要

将来的な活用可能性

- ・学習・活動に取り組んだ履歴など新たな情報を蓄積することにより、さらなる「学び」と「活動」の循環を促進

6. 今後の検討事項

- ・就業・大学入学者選抜での学習成果の証明の場面での活用
- ・より幅広い視点からの人材認証制度の「学び」と「活動」の循環の形成に向けた活用方策
- ・学習成果の証明に活用される検定試験の質の保証・向上のための具体的方策